

ワークショップ

「内視鏡治療後に生じた消化管潰瘍のマネージメント」

司会 片岡 洋望（名古屋市立大学消化器・代謝内科学）

丸山 保彦（藤枝市立総合病院消化器内科）

消化管腫瘍性病変に対する ESD 治療はその適応が徐々に広がり、広範囲の切除も行われるようになってきた。ESD 後胃潰瘍は通常 PPI などの制酸剤で癒痕化するが、切除部位や切除範囲によっては潰瘍が遷延する症例や、癒痕化による変形で排出遅延など機能的障害をきたす症例も存在する。切除後潰瘍に対する工夫として、クリップや結紮糸による縫合、PGA シートによる被覆なども報告され、狭窄予防に対して食道 ESD に準じたステロイド局注などの報告もある。本セッションでは、内視鏡治療後の消化管潰瘍性病変の問題点や治療の工夫などを発表していただき、今後の治療に役立てたいと考えている。多くの施設からの応募を期待する。